

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡亶理町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡亶理町

収録日時 2012（平成 24）年 7 月 14 日

収録場所 宮城県亶理郡亶理町長瀬（話者 B 宅）

話題 【震災のときのこと】

話者

A	女	1925（大正 14）年	（収録時 87 歳）	[B の友人]
B	女	1929（昭和 4）年	（収録時 83 歳）	[A の友人]
C	女	1979（昭和 54）年	（収録時 33 歳）	[調査者]

話者出身地

A	亶理町亶理（ワタリ）
B	亶理町長瀬浜（ナガトロハマ）

【震災のときのこと】

話し手

A	女	1925 (大正 14) 年	(収録時 87 歳)	[Bの友人]
B	女	1929 (昭和 4) 年	(収録時 83 歳)	[Aの友人]
C	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者]

001A : ホイデモ コノヒトダモ ガッコーサ ハヤグ ニゲダランダッチャ。
それでも この人たちも 学校に 早く 逃げたんだよ。

イガッダノ (B シー) コトヒト。

よかったの (B うーん) このひと。

002B : ンデモ ヤッパリ オライデモ マゴ ホラネ
それでも やっぱり 私の家でも 孫[が] ほらね

シヤクショーセンモンダガラ ガッコー ソズキ° ヨース ワダリコーコー
百姓専門だから 学校 卒業× 亙理高校

ソズキ° ヨーステネ、ガッコーデモ ホラ ノーカヌ ショード
卒業してね、 学校でも ほら 農家に しようと

オモッタダエッチャ、コーケーシャネ。ソレデ コンド X1ダイカ° グサ
おもったんだろうね、 後継者ね。 それで 今度 X1大学に

ニネン。(C ハー) イチゴセンモンネ。(C アー ソーナンデ) ソシテ
二年。(C はー) イチゴ専門ね。(C あー そうなんで) そして

ソズキ° ヨーシテチタノ シカ° ツ ヤハリネ。ソシタツケ ログカ° ズヌ
卒業してきたの 四月 やはりね。そうしたら 六月に

オトーサン チチオヤガ ナグナッテワ、イチネングライ
お父さん 父親が 亡くなってね、一年ぐらい

亙理町 自由会話

オシエデモラウデガッダナハー ナンテネ。ンダッテ ダメダッチャワー、
教えてもらいたかったなー なんてね。だって だめでしょうよ、

ハウスワ ネーベスワ。{笑} ナンヌモ ツグランネベ
[イチゴの]ハウスは ないし。 {笑} なんにも つくれないだろう

ホレデワ。
それでは。

003A : コノヒトノ ハウスモ ソゴ ズーット アッタノ。
このひとの ハウスも そこ[に] ズーっと あったの。

004B : コゴ ソーコノ オッグリワ ミナ アッタノ。
ここ 倉庫の 並びは みんな あったの。

005A : ホンダケッドモ ド アレ ホンデモネ
それだけれど × あれ それでもね

006B : ゴジューネングレ (A ホノ) イチコ° ツグッタネ。
五十年くらい (A その) イチゴ 作ったね。

007A : ノーチャー アッタガラ ユッツノホー タスカッタノ。
農協 あったから こっちの方 助かったの。

008B : ノーチャーノ カケ° ニシノ ヒトタズワネ ソンナヌ (A ナンデモネー)
農協の かけ 西の 人たちはね そんなに (A なんでもない)

コゴワ ウエギ ツグ ウエギ ウエタッタガラ ウズデネ。ブロックデワ
ここは 植木 ×× 植木 植えていたから うちでね。ブロックでは

タオレルッテ ユーガラ ホラ ウエギダガラ ノジマデ (A ホーダネ)
倒れるって いうから ほら 植木だから 軒まで (A そうだねー)

アライデ タマッダランダワネ。ハイッデカ° ンネダドワ。 (A アー モー)
私の家で たまったんだね。 入っていけないんだよ。 (A あー もう)

亙理町 自由会話

ダーメジャー) ダメナンダッデワ コランネガ コネツチャワー
だめだよ) だめなんだってよ ××××× 来ないでしょう

サンカケ° ズモ。 タマタマ (A ウン) キタケンドモ (A ウンウンウンウンウン)
三か月も。 たまたま (A うん) 来たけれども (A うんうんうんうんうん)

ヤサイツクルヌ。 バーチャン イッタラ コシヌゲッガラ
野菜作りに。 ばあちゃん 行ったら 腰ぬけるから

イカ° ンネワーナンタッテ ハー ホントヌネー。 ソシテ
行けないよなんていったって はー 本当にね。 そして

009A : イヤイヤ ホントヌ
いやいや 本当に

010B : デ シナンジョガラ ホンデモ マコ° ワネ イチネングレ トリノウミノ
で 避難所から それでも 孫はね 一年ぐらい 鳥の海の

ホラ コージネ カサアケ° ネ イチネングレー シナンジョガラ カヨッタネ。
ほら 工事ね かさ上げね 一年ぐらい 避難所から 通ったね。

ソシテ サンカケ° ツグライデ コゴサ ダイクサン。
そして 三ヶ月くらいで ここに 大工さん[来た]。

011A : サンカケ° ツデ チタカヤ コゴサ。
三ヶ月で 来たかよ ここに[大工さんが]。

012B : オレ サンカケ° ツ。 ロク° カ° ツノ ハツカゴロ チタノ。
うち 三か月。 六月の 二十日ごろ 来たの。

013A : ンダノ。 ンー
そうなの。 んー

014B : マダ ダイクサン デキネータッテ ミナ カンベ ミンナ
まだ 大工さん [作業]できないといっても みんな 壁 みんな

亙理町 自由会話

オドシタンダガラ、ゼーンブ。ゼンブ ナンヌモ ナインダガラ、
落としたんだから、全部。 全部 なんにも ないんだから、

コノ イダノマモ ミナ。タダミダガラ ミナ アレダッチャワ ンデ
この 板の間も 全部。豊だから みんな あれでしょう それでは

(A ンダサワ ナヌモ) ソッチモ ミナ イダメ ハッタンダ ベズヌ
(A そうでしょう 何も) そっちも みんな 床板 はったんだ 別に

ミナ。 タダミ ゼーンブ ハッテ。コイガ アナダラゲナンダ ホント
みんな。豊 全部 張って。これが 穴だらけなんだ 本当に

ドコガガ コノヘンモ アナ オッキナ アナ アガッテワ、
どこかが このへんも 穴 大きな 穴 開いてね、

ミランネガッダワ。イダメダベス チッタッテ。
見られなかったよ。板目だし 来ていたって。

015A : ンデ コノ ナガトロハマデ (B ン) ナク° ナッダヒトワ (B ンデモ)
それで この 長瀬浜で (B ん) 亡くなった人は (B それでも)

ジューサンヌン アルッテ。(C アー ソーナンデスカ)
十三人 あるって。(C あー そうなんですか)

016B : ニシャクニジュッケンク° レー アッダンダッテ コノ プラグワネ。
二百二十軒くらい あったんだって この 部落はね。

モドッテクレンノカ° シャクニジュッケンク° レダガナーッテユーノワネ。
戻ってこられるのが 百二十軒くらいかなーっていうのよね。

アド ホラ マーダ コワサナイデ タッデッドコワ ローンカ°
あと ほら まだ 壊さないで 建ってる場所は ローンが

ノゴッテルンダッテ。ソレデー カイタイスットワ コンド タイヘンダガラワー
残ってるんだって。それで 解体するとね 今度 大変だからね

亙理町 自由会話

ソノウズナオシテ ハイルーッテネ マダ ツク ナオサネノネー。
そのうち直して 入るってね まだ ×× 直さないのね。

ナガナガ マエノ ウズデモ マダ
なかなか 前の 家でも まだ

017A : デモ ソロソロ ムゴノホー (B ンー) ナオシテッガラナ。
でも そろそろ 向こうのほう (B んー) 直してるからね。

018B : ダイクサン (A ウン ウン) ハイッテッカラネ。ンデモ ダイクサンモ イマ
大工さん (A うん うん) 入ってるからね。それでも 大工さんも 今

タガインダッテワ コンド。
高いんだってね 今度。

019A : ウズモー ホントヌ ヨグヨグダ。 ウズワ、ンー。
うちも 本当に よくよく[残ったん]だ。 うちは、んー。

020B : ンダネー。 ミナ (A ンー) トナリモ ズット ナガレテ (A ンー)
そうだねー。みんな (A うん) 隣も ずっと 流れて (A うん)

ネーベスワ。 ンデモナーー
ないだろうし。それでもなあ

021A : コノヒトノ コノ トナリノウズネ (B ナガレダンドワ) フルイーナデ
このひとの この 隣の家ね (B 流れたんだよ) 古いので

ヨンジューネングレ ナッカワナ (B ナッペワナ) アノウズナ。ホイズ オ
四十年くらい なるかな (B なるだろうね) あの家ね。 それ ×

022B : キッケ ネワナ。 オライノ ズーチャン タデダ ウズダッダノ。
悉皆 ないよな。私の家の じいちゃん[が] 建てた 家だったの。

(A ンダガラ ホンデ) オライデ ニダイ ダイクサンダッタノ。

(A そうなの それで) 私の家で 二代 大工さんだったの。

亙理町 自由会話

トッショリズーチャントネ、オッペジッチャント ホラ (A ー) フタリ。
年寄りじいちゃんね、 ひいじいちゃんと ほら (A うん) ふたり。

ムスコワ タガアガリ ヤンダ、コワクテ アガランネンダトステ ナンヌズガ
息子は 高いところ 嫌だ、 怖くて 上がれないんだといって 何日か

アルッタゲンドモ ダイクニ ナンネガッダノ。(A アラララー)
歩いたけれども 大工に ならなかったの。(A あららら)

ソーステ クルマノリナントバリ スッタガラ ウンテンス スタリ
そうして 車乗りなんかばかり していたから 運転手 したり

ソノアイマ ホラ シャクショー スッタベ、 イジコ° ツグッダリデワ。
その合間 ほら 百姓 しているでしょう、イチゴ 作ったりでき。

ンダガラ カラダモ アレー ヤッバリ カンゾーカ° ンガ ナヌガ
それだから 体も あれ やっぱり 肝臓がんか 何か

ナンダッダンダワッテ。チョーチョリナントバリステ アルッタベ
なんだったんだなって。長距離などばかりして 歩いたでしょう

リクソーナントデナ、ホントヌ。ソステワ マコ° ダズワ シトグミワ
陸送などでね、 本当に。そしてね 孫たちは 一組は

アラハマダガラネ、アラハマショーカ° ッコーダッダガラ ウズモ ナガレデ
荒浜だからね、 荒浜小学校だったから 家も 流れて

ネースワ。(C ハー) イマ ホイクショネ。(C ー) ステ ホラ
ないしね。(C はー) 今 保育所ね。(C うん) そして ほら

カセツサ ハイッタカラワ、ワダリコーコーノ シタノ カセツネ。(C ハイ)
仮設に 入ったからね、 亙理高校の 下の 仮設ね。(C はい)

アド シトリワ ニガイサ スンデダンダゲンドモ コンドワ
あと 一人は 二階に 住んでいたんだけど今度も 今度は

亙理町 自由会話

イレランネート オカーサンヌサ ドグリズスネデ ダメダガラッデ
入れられないと お母さんにさ 独立しないで[は] だめだからって

ソレモ カセズサ ハイッテ フタグミ カセズサ ハイッテンノヌ。ソシテ
それも 仮設に 入って 二組 仮設に 入ってるのね。そして

カセツ セマッコクテ フトンモ ナヌモ オグトゴ ナインダッテワ。
仮設 狭くて 布団も 何も 置くところ ないんだってよ。

イマ アッダガクナッテ。(C アー) ミナ モッテチテ (C ハー) ザスギ
今 暖かくなって。(C あー) 全部 持ってきて (C はー) 座敷

イッパイ {笑} フトンダラゲ、コンド。コダズモ イラネ フトンモ イラネ
いっぱい {笑} 布団だらけ、今度。こたつも いらぬ 布団も いらぬ

ナーンダヤナンツッタノ ケサモ。ンダッテ オク。ドゴネーモノナンテ
なんだよなんて言ったの 今朝も。だって 置くところないものなんて

(A ウン) セマイガラ。

(A うん) 狭いから。

023A : ドゴデモ ホーダッチャ。

どこでも そうじゃない。

024B : ンダガラ ホンデモ ホラ マゴダズ チテモ コゴ シロイガラ (A ウン

それだから それでも ほら 孫たち 来ても ここ 広いから (A うん

ウン ダナワ) ジデンシヤ モッテチッダカラワ (A ウン) ヤッパリ

うん だよね) 自転車 持ってきてたからね (A ウン) やっぱり

ジデンシヤダノ カッダンダッタガ (A ウン) ノゴッテタンダッタガネ、

自転車だの 買ったんだったか (A ウン) 残っていたんだったかね、

(A ウン ウン) ココ ソレデ イッショーケンメー アソンデアルゲンダネ。

(A うん うん) ここ それで 一生懸命 遊んで回るんだね。

亙理町 自由会話

(A ンダッチャナ) カエッデクッド。ドヨーニチヨービネー。チョーワ

(A そうだらうね) 帰ってくると。土曜日曜日ね。今日は

イワヌマデー (A ウン) トガッデ (A ウン) アシ ダガラ。

岩沼で (A うん) とかって (A うん) ×× だから。

025A : イヤイヤ ホント ヒドイガッダ。

いやいや 本当 ひどかった。

026B : イマワ サンニン ダゲダガラワ (A ウン) オカーサント マゴドネ ワダシド

今は 三人 だけだからね (A うん) お母さんと 孫とね 私と

サンニンセーガズダガラ ラゲンナッダワ。{笑}

三人生活だから 楽になったよ。{笑}

027A : ホンデモ ヤマカ° ダアダリワ ナンデモネガッダ。[1]

それでも 山形あたりは 何でもなかった?

028C : ナンデモナカタデスネー。 ハイ。(A ウーン)

なんでもなかったですねー。 はい。(A うーん)

029B : デモ コゴワ ンデモ テレビ ミット マダ ヒドイヨーダネー (C ア)

でも ここは それでも テレビ 見ると まだ ひどいようだね (C あ)

チューシューアタリネー (C ア イマ ソーウデスネー) (A イマ) アメネ。

九州あたりね (C あ 今 そうですね) (A 今) 雨ね。

ツナミヨッカ シドイヨーダネ。

津波よりも ひどいようだね。

030A : オドケ° デネー ンダネヤ アメ マイヌズネ。

とてつもないんだね 雨 毎日ね。

031B : アメ ネー ンダネー (A ウン) マイヌズ ミッカモヨッカモネー。(A ウン)

雨 ないんだね (A うん) 毎日 三日も四日もねー。(A うん)

亙理町 自由会話

ンーダーガラ) コゴ イッパイ ンダガラネ ウエジダノ アッタノサ
本当に) ここ ずっと それだからね 植木とか あったのね

コゴ ニワネ。(C ウン) ユズノキデモ カギヌギデモ {笑}
ここ 庭ね。(C うん) 柚子の木でも 柿の木でも {笑}

マズヌギデモ {笑}
松の木でも {笑}

032A : ホンデモ コツツデ ナンボンナレ アッカラ イーツチャネヤ。
それでも こっちで[は] いくらなり あるから いいじゃないか。

033B : イッポン ノコッタンダッチャ ホレ。
一本 のこったんだよ ほら。

034A : オライデナンテ ロージモ ナヌモ スッパリ ネー {笑}
私の家でなんて 路地も なにも さっぱり ない {笑}

ウエジダッデ ナンダッデ ズイブンヌ アンノ。
植木だって なんだって ずいぶんにあるの。

035B : アレ シオミズダガラワネ (A マズデモ ナンデモ イッペー) ダメダーッデ。
あれ 塩水だからね (A 松でも 何でも いっぱい) だめだって。

036A : ソイズ ミナ ナガレダオンワネヤ、ワカ°ンメーワ。ホンデモ コツツデ
それ みんな 流れたものね、 だめだろうよ。 それでも こっちで

ナンボナリ イーンダ。
いくらなり いいんだ。

037B : コレ ハナ アズベデ ウエダノ (A ウン) クサバナ タネカッテワ
これ 花 集めて 植えたの (A うん) 草花[の] 種買ってさ

マイダノヤ。(A ウン) ンダッテ ナンヌモ ネーンダモノー。 モミジダノ
まいたのよ。(A うん) だって 何にも ないんだもの。 紅葉だの

(A ホントダネ) ユズダノ (A ウン ウン) イヤ チンモクセーダ
(A 本当だね) 柚子だの (A うん うん) いや 金木犀や

ジンモクセー {笑} アッタノヌナー。 ナーヌ
ギンモクセイ {笑} あったのにな。 何

038A : ホンデモ コノ バーチャンワ (C ウン) ハナ スジデ コレ {笑}
それでも この ばあちゃんは (C うん) 花 好きで これ {笑}

ミナ ズーット ウエデオンダッチャワ ホラ。ミナ コイナサ
みんな ずーっと 植えておくんだよ ほら。みんな こういうものに

オッチナ ウエギ ウワッテ アッタノナ。 (B ウーニー) ホイズ ミナ
大きな 植木 植わって あったのね。 (B うーん) それ みんな

カキヌキダ ナンダッテ アッダダゲンドモ。
柿の木やら 何だと あったんだけども。

039B : カギダノ マズ アッタンダゲントモ {咳ばらい} イッポンモ ナイモノワ。
柿とか 松 あったんだけども {咳ばらい} 一本も ないものね。

チューイフルーツ (A ナガレダガラワナ ミナナ) ネー。
キウイフルーツ (A 流れたからね みんなね) ねー。

カギヌギ ゴロツポン アッタノネ。ヤッパシ ムガシノ バーチャンダズ
柿の木 五、六本 あったのね。やっぱり 昔の おばあちゃんたち

(A ホダ) カギ ヤママデ ザオーチョーマデ カウサ イッタンダッテ
(A そうだ) 柿[を] 山まで 蔵王町まで 買いに 行ったんだって

ムガシ。 (A アーー) ソレオ ホシクテ カジ ウエタンダッテ、
昔。 (A あー) それを[=が] 欲しくて 柿 植えたんだって、

チ。 ダガラ ゴログジューネン ナッタガラワ スゴク
木[を]。だから 五十年[に] なったからね すごく

亙理町 自由会話

ナッタノサワ マイネンネ。(A ウンウン)
[実が]なったんだよ 毎年ね。(A うんうん)

ダガラ トナリデ イマ ウエッタгентモ (A ウンウン)
だから 隣で 今 植えているけれども (A うんうん)

チョックラニ ナンネベワ。(A ウン) ジューネント ナンボ
ちよつと[の時間では] ならないだろうな。(A うん) 十年と いくらか

(A ンダネー) カガッペワ。 カジワ (A ウン) モモクリサンネン
(A そうだね) かかるだろうな。柿は (A うん) 桃栗三年

ナンツгентモ、 カギハズネンナンテナ (A ナンヌモネーワ オライデ)
なんていうけれども、柿八年なんてね (A なんにもないわ 私の家で[は])

ホナ) ナンヌモワナ。(A ウン) {咳ばらい}
そんなの) 何にもね。(A うん) {咳ばらい}

ナンヌモ ネーワナー。
何にも ないね。

宮城県亶理郡亶理町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ヤマカ° ダアダリワ ナンデモネガッダ

調査者（C）は山形県の出身であるため、山形のことを聞いている。

宮城県亶理郡亶理町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
柴田 充（東北大学文学部 3 年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
柴田 充（東北大学文学部 3 年）